

## 平成 30 年度 国税庁長官賞

税金は国境を超える

奈良市立富雄南中学校 三年 湯川 カンナ

私は小学生のころ、父の仕事の都合で、ベトナムの首都ハノイに住んでいました。ハノイには、日本人がたくさんいて、日本から来る理由もさまざまでした。その中にハノイの国際空港、「ノイバイ国際空港」の第二ターミナルを建設するために来た人がいました。私は、どうして日本の人がベトナムの空港を作るのだろうかと思っていました。

調べてみると、ノイバイ国際空港の第二ターミナルと、ニャットン橋、それらを結ぶ連絡道路を建設するプロジェクトが行われていたことが分かりました。そしてそれらの総工費、千八百三十一億円のうち、その七割以上を日本の ODA（政府開発援助）で賄われていました。ODA とは、先進工業国の政府及び政府機関が発展途上国に対して行う援助や出資のことです。政府からの出資ということは、それらは私たちの払う税金から出ています。日本は、歳出の 0.5 パーセントをこういった経済協力費に充てているのです。しかし、「借金大国」と呼ばれるほど国債を抱えていたりするのに、私たち日本国民が納めた税金を、なぜ他の国の発展のため使うのだろうか、という疑問が湧き出てきました。

けれども、発展途上国を支援することはとても大切なことでした。

一九四五年、第二次世界大戦で敗戦した日本は、とても貧しい国になりました。そのときに日本は、他の国に支援され、今では世界でも数少ない先進工業国になるまでに成長しました。だから、成長した日本が昔助けられたように、発展途上国を支援するのは、日本の大切な役割なのです。

また、発展途上国を支援する上で、メリットもたくさんあります。まず、国と国との関係が強化されます。そして、支援していた国の経済が安定すると、日本と貿易をしたり、日本の物を買ってくれたり、日本の経済もより発展します。発展途上国を支援すると、その国が平和になって、経済が安定すると同時に、日本も豊かになるのです。

私たちが納める税金は、日本だけでなく国境を越えて海外でも役立っています。私が今納めている消費税、将来納めるであろう所得税や住民税が、少しでも発展途上国の経済の発展のため、その国の子供たちの安全や教育のために使われる。そしてそれが日本の未来につながるのだと思うと、とてもうれしく思います。また、私も税金を通して、海外とつながっているのだと実感しました。

税金のおかげで今の世界がある。日本がある。私がいる。それに感謝して、これからも税金を納めていきたいと思います。